







花はうらりり月はあつた

地はあつた

情はあつた

心はあつた

身はあつた

心はあつた

身はあつた

心はあつた

身はあつた

心はあつた

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. The characters are dark ink on aged paper. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. The characters are dark ink on aged paper. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely Persian or Urdu, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Persian or Urdu, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the right page.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a specific section of the document.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a short note.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the left page.

たのむさげぬらん
とやあやみぞ

ささるるよりのこころを
ささるるよりのこころを

夕月の 十五夜の月と云

謝希逸月賦美人遙兮音塵隔
隔千里兮共明月 唐李峤百
詠三五二八夜千里兮君同 白氏
文集三又月中新月色二千里外故
人心

曉らくありて ちと席よ秋月

とらんよりらんをこゝろにわらふし

とて目起と 莊子駢拇篇吾

不悟明若非獨其見彼也自見而

已矣 道生八牋五云多樂洞

雨後聽泉我輩豈平外又當

不以耳聽以心聽

善の教と云とて 山谷詩云を

不窺園黃鸝三請

月入帯の国たらし 杜甫詩今夜郵

川月団中唯獨看ユラシ

わうらもむらさき　　そらもむらさき

めもむらさき　　ゆらら

ら舟の若浪そらそら

そらもむらさき　　あうらもむらさき

泉よ　　ま義の殺風系ニ上ニ曝ニ視ニ清ニ

泉ニ深ニ見ニ

泉ん　　かそむらさき

枝をそらむらさき　　まらむらさき

そらむらさき　　むらさき

ら

まむらさきのゆらゆら　　ゆら

むらさき　　むらさき

むらさき

らむらさき　　かそむらさき

らむらさき

らむらさき　　美藤のむらさき

らむらさき　　むらさき

むらさき　　むらさき

むらさき

すまねたるも 横家入道具

世のふり 系人始終とて世ら

治乱皆喜乃とて人の心

ら修んごうと 見物群集人の

くま治よの死わんぐれい我を救

よんんこ

あらん 治乱群集云巨く皆くは

くま治よの死わんぐれい我を救

あらん 治乱群集云巨く皆くは

符傳山林不能給節火江海不

能實漏危

一日よ二人のこらんや

神代卷上云伊弉冉言曰愛也

昔史君言如此者吾當縊殺汝

一而治國民日將千歌伊弉諾言乃

報之曰愛也吾妹言如此者吾則

當産日將千五百頭

多節節 二卷よらんんごう

母君 西行大納言

母君入すそのつらんんごう

しーれくよまをさうしー

むらさしよのさくまの

淮南子淮南子

棺若欲棺若欲民之疾痛民之疾痛弊弊費費し

棺

所以盛所以盛屍屍也

まうこいそて

二〇三〇。二〇四〇。二〇三〇。

二二一。二二二。二二三。二二四。二二五。二二六。

てまうて十めあうまのさく

まあれた 脱脱字字をまわししむ但但

あうてい同同扱扱のまのうへ

あるをとりてあそひ 唐唐田遊田遊若源若源

其山其山言言祖幸祖幸其門其門曰曰先生先生此佳否此佳否

答曰答曰居居泉石泉石膏肓膏肓烟瘴烟瘴痼疾痼疾

まひりしんた清清うめひひめううたり

さあうのふさうとみよさく

まゆさうさうさうさうさうさうさう

くのさうさうさうさうさうさうさう

しー目目臨臨大肉大肉の

かた地地のさうさうさうさうさうさう

くらうくらうさうさうさうさうさう

實教社色天社日よりの日より
可くもつる月の中の間九日く又終る
果よりのひとくくゆのみ栄雅なるふ
ふとつるの巻つるふちりの巻
つるすふとつるもつるつる

因陀内傳 因陀守絶伸々女法冷泉

流女唐く

つるすふとつるもつるつる 新古今よくや
物よもつる女くあつるつる養とんあまの
日つるつるつる ちあま

つるつるのあひひくつるつる
つるつるのつるのつるつるつる
あつるつるつるつるつる

松葉子 松葉絶言作と冊あり
あつるつるつるつるつる

鴨舌的つる李物流 田春あり

つるつる ちま 根源云又月五日節

今天皇自云法教よ出所なりて安念つ
外道群信く流成流なり日并

とも二平ゆかりり柳又おし一卯月いり
 りこのめりそとくそとらうのの花紅葉
 山もあつてそとくたあうたらた
 けいりまもと本いあうりうらうら
 心映あうたつてさささし池よさ蓮秋
 りあまのよたすくまこさうらう萩書院
 くらとぬまよとにらん色くあうや
 月んたしきく芙蓉もつてらんあさふ
 りまもつてあうらんゆやうの垣
 くらあうりひひくえあによしあうあ

ううたうらみのみうてたもらん
 めたしきうらうらんはらう
 もあうしきうらうたあよあ人の
 ともてあすうあうらうのあうそ
 ありらん

ねいふ葉 唐侍教次よ書賀又粒松の

介侍うとあり又葉あうら 百陽

雜俎世言ね立粒者粒當言鬣自

有カク一種名鬣皮カク如カク鱗甲結實多

新羅多此種

八重栲 一重栲の山時香高八重栲

と人たててしりりくると心あふゆ

くれいその花と流りりてうきりい

くさくさあり 伊勢之浦

いあいのあふれもやいのやう

くさくさくさくさくさくさ

古栲花 古今席一重たあしだ

のつとくくくくくくくくく

くさくさんくさくさ

おとれくさく 巴書よおとれ栲をよ

栲あり

くさくく 昔凡そく

くさくく 昔かくくくく

栲くくく 毎る言くくく

くさくくく

あつたや見えさくくく

くさくくくく

くさくく 兜栲とく 王荊云

詩山栲抱石映相枝比並餘花同

寂生只有善凡嘆寂寞吹香渡

有報人知の得と中集よの橋と歌
せり全芳備祖よの橋柳代初よ入り

重牙梅 東坡詩二月驚梅既幽香

此北無

系格入道 風雅集十五定家跡くや

すんくろ家小らりて交て初くゆ

けりみろろろろてゆき梅は

ぬえさよじしひつひ

水福門尾肉竹

いふふふふふふふふふふふ

うらわたりみよりしりえ

やそ人の言書

くらあろろろろろの梅えん

まろろろろろろろろろ

卯月ろろろろろろろ 杜牧詩お

葉初於二月既とろの或入新塚勝記

たろろろろろろ

池よの蓮 謝安運序よ入て東林

ぬ池よろろり道とろろりまこと美

すろろのむろれとろろろろろ

さし目致敷あり

うそくた物あり

愛し人ま物く

と云致也

こらう

枯板く古今物れ名のきよ

枯らう 帯のありはうろ白あり

とやうなるも色はけりあり

とよお 紫苑くおしひしめん

とれ色く くらとぬと云候あり

使衣

じきのつおしふかすいん

枯しとやうなるありあり

アんだく 新膳く 古今よ

我やその花うらなきうせん

のいらもれらやめとく

黄菊 月令も菊も芙蓉とわん(菊)

花の美がりと云ふも

うやう 細^{サ、ヤカ}汗^{サ、マカ}す

うらたうらな 辛梅のちよよ

枯て神農と云うはくはく

んえいあんこわうのちんちや

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

文得而怒曰有君如此何患歎之促
收伏罪性慙懼消爾持衣自首祐
屏反若向其故性懼迷又言祐曰
椽以親故受汚辱之名而得觀過
斯知仁矣使汝謝改遷以衣遺之
人恒死者少也 孟子梁惠王上

篇曰之恒產而有恒心者惟士為
能若民則之恒產固之恒心苟
之恒心故辟邪侈之不為已及陷
於罪然後從而刑之是罔民也焉有

仁人有位罔民而可為也且明
君制民之產必使作足以食父母
俯足以畜妻子樂歲終身飽凶年
免於死亡然後驅而之故民之從
之也輕也黎民不饑不寒然而不
王者未之有也

人之性也 家終云歎窮
則擢身窮則嗚人窮則詐湯然
小人窮者無所不至也 豈有
之歟

そのまゝにわたりてぬきつらうと
親志の昂末落るるのいと盛衰
記三十四よんんんり

灸治ありてあにさうりつたの神
をいれありていふまじらぬ
ぢらあり格式おめとみんん

格式 湯殿天皇の時弘仁格弘仁式撰
と清和天皇の時貞観格貞観式と
撰と醍醐天皇の時延喜格延喜式と
撰のまじらぬ格式と一律と合と

よ合せて明はあし格と
甲子のたぐ人もよ灸とくして
やういふたぐも灸とくして
也

四十のたぐ人も 明堂灸経曰男子三十以
上不可灸三里三里并以下
也

康草と鼻のわてていんちん
虫ありて鼻より入て思と

康草 康草より角へ本草云不

増むるにいとせむるをいふて善人法師
なりし法蓮のほろくも

災國のこころなり 一向のむす

らりとせむ

はつとせむ 強面強顔ありて

く強強よすはてとせむ

天性その骨 善道つとせむ

なりとも 泥をいふとせむ

なりあり

法蓮 強強よすはてとせむ

くくせむ 法蓮よすはて

ありて るるをいふて

法蓮 二字とも玉のこころ

くくせむ

法蓮よすはてとせむ

法蓮よすはてとせむ

くくせむ 法蓮よすはてとせむ

くくせむ 善珠法師の光明皇后尊子

也法門とて唯徹エイシキのよる人なり

くくせむ 法蓮よすはてとせむ

ふかき... 夜月のあつきた
あつきたる風の... だも...
と... ち...
い... ち...

か... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...

わ... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年...

論語子罕篇

後生可畏... 知来者... 之不知...
也... 四十五... 而無...
也... 大戴礼修身篇... 曾子曰...
也... 也...

年三十四十之間而亡氣則亡
矣五十而不以善聞則不聞矣七
十而未壞雖有後過亦不以免
矣

ゆ〜むら〜ん〜い〜
〜〜〜

〜〜〜

むら〜ん〜い〜
不審ら〜い

経の〜い〜

西大寺神ミヤと人懐トシわ〜り眉ら〜

ゆ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

〜〜〜ま〜り〜ら〜と西園寺内大臣
わ〜い〜い〜い〜い〜い〜信任の
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
年れ〜り〜ら〜ら〜い〜い〜い〜い〜
日ふ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
て〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
〜〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
〜〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

西大寺 西和園ふありせらるる

拾芥云云 天白皇天平情實元年

創之至天平神護元年十七年
造畢 詳續日本記

西園寺内大臣 實衡云くた厨云衡云

八男又竹林院と号す

資朝口 権中納言位 檢非違使

別当 後醍醐天皇時人々日昂後

光邦三男

志乃のりて 莊子小龍乃字成

さうりふこよあり

為兼大納言入道りしとて武士

しらわこて六波羅(み)てり
資朝公一とてりしとて
わらわらとてりしとて
そりゆりしとてりしとて

為兼大納言 昆沙門堂と号す 定家

為家 為教 為兼 権大納言正二

位 應長元年 依勅撰進 玉葉集正

和元年 奏覽之日 二年十月十七日

剗 同四年十二月廿八日 東使

て 依海人 流罪也 云々 御記

よんんんんん 或は流は為兼統後流
きて和方ホと首とよんん和流陀仏と
いんんんんんんんんんんんんんんんん
そよんんんんんんんんんんんんんんんん
平内流んんん 同雅集は為兼東
ぬんんんんんんんんんんんんんんんんん
よんんんんん

あはれんんんんんんんんんんんんんんんん
くくくくくくくくくくくくくくくくく

大波流 小糸歌あ人の一族と京都

よんんんんんんんんんんんんんんんんん
よんんんんんんんんんんんんんんんんん

ひんんんんんんんんんんんんんんんんん
くくくくくくくくくくくくくくくくく
あうんんんんんんんんんんんんんんんん
くくくくくくくくくくくくくくくくく
てんんんんんんんんんんんんんんんんん
んんんんんんんんんんんんんんんんん
わんんんんんんんんんんんんんんんんん
くくくくくくくくくくくくくくくくく

按尾と云字ハ傳書小出より

平山と云く

漢書張良傳忠言

逆耳

生信吳臧

藏宋法教曰四相小廉納

りり生老病死ハ廉大相ハ生任

身藏ハ細乃四相ハ生ハじらん也

身任ハハるに吾任して也と云

身ハ病と云きて身形より蔵之死

去也

くげ久川の

論沈子罕篇子在川

上逝者如斯夫不舍晝夜 程子

曰此道體ハ天運而不已日往則月

来寒往則暑来水流而不息物生而

不窮皆与道為体運平晝夜未嘗

已也

真俗 真也世間俗也

善くして後 六韜云春道生万物榮ハ

夏道長万物成秋道歛万物盈冬

道藏万物靜盈則藏則後起莫

知也終莫知也始

秋のあそび

下々あそびふ秋しくあそび
しつふりつみのよひに

小春

和字紀冬日其暖ゆ故謂之

小春、夏文類聚前集十月八日のん
えさうり

四季のあそび

四季のあそびのゆへに

と云く節序と云く

春のあそびはあそびのあそび
夏はあそびのあそび
秋はあそびのあそび
冬はあそびのあそび

あそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそび

春のあそび

春のあそびのあそび

夏

秋

秋のあそびのあそび

冬
冬はあそびのあそび

白
白はあそびのあそび

云々

る

柳しゅうんんままととららみ 大境師輔たいきょうしほ云いははす

ふふくくくくももももととわわりり 双すう六りくののままとと云い

ととららええららり

不ふ言ごんのの感かんと 尚なほ云いははすす感かん詭ぎ号ごう不ふ言ごん鹿か

也

聖せい教きょう 經きやう論ろん等とう云いははす

わわくくとと云いははす 哲てつのの言ごんく 白はく比ひとと云い

卒そつ余よ 論ろん信しん注ちゆ卒そつ余よ輕けい邊へん之之兒い

繩じゆ床だう 梵ぼん網わう注ちゆ善ぜん薩さつ十じゆ八はつ物ぶつののららりり

李白らいはく草そう書しよ欽きん行かう宣せん川せん石せき硯えん墨ぼく色しき光くわう

吾ご師し翁う復ふく停てい繩じゆ床だう 謂い懷わい素そ 理りりり

つつららとと理りとと力りきふふととめめとと云い

事じとと理りとと各かく別べつしてして一いつ編へんのの著しやくとと云い

ととのの理り際さい事じ際さいとといいははすすととららみみ事じ

理り不ふととととららみみのの台たい家か大だい論ろんのの相かう不ふ替がい

内ない徒た必ひつ熟じやくとと云いははす 惠ゑいのの信しん教きょうのの常じやう法ぽう

画かくののここととととららみみとと云いははす 云いははすすとと云い

ととああららみみののららみみとと云いははす 漸ぜん而じゆとと云い

いいとと云いははすすとと云いははすすとと云いははすす

幼る由小縁のらお福門のせくく
のまのま見物大板あふりよ
ぬめやもくくくくくくくくく
せりうんく天のまのくくくく
復摩くこととくくくくくくく
すくたきくくくくくくくく
すくくくくくくくくくくく
信正のらよまのくくくくく
のくおり

類くく 揚トウ字く上鏡大上実教の信

よまのくの中りよ類のまのく
わり平縁物次類ら信りりよ
くはるく

おるも小縁のら福の せきまの志

くたうり

くくく 平縁

くぬく 渡りの焼く焚焼と類

くぬくくくくくくくくくく

ぬくぬくくくくくくくく

くぬくくくくくくくくく

摩訶カのたれ梵行カして摩訶大迦
葉カなんといり

清栄寺

東山ろく谷入をあらり

拾芥、下本云清栄寺作伯公行建立ス

花乃さうりいをむしり百み中日とて時
正れ後ちるととてしるまきしりちかある
ちりやうたうとん

おま

むぐん入中日ッおま

適照寺の取仕法師池の巻成日あり
ひはきしるまきしりちかある

戸ありしりあきされん教もきりしりい
ちり多れ後ちるととてしるまきしりちかある
かそとらりしりあきされん教もきりしりい
りしりあきされん教もきりしりい
てんよはけされん教もきりしりい
あしりしりあきされん教もきりしりい
わらりしりあきされん教もきりしりい
ちりしりあきされん教もきりしりい
使殿人出しりあきされん教もきりしりい
ひよりしりあきされん教もきりしりい

中庸子曰射有似于君子失諸正鹄反求諸其身

清獻公行 言行錄後集五趙抃清獻

公字因道衢州人奉進士事仁宗

英宗神宗官至參政擢穎趙抃

氣貌清逸人不見其喜愠自号知

非子為待御史彈劾不避貴勢

京師号為鉄面御史一皇朝類

苑三十六云馮瀛王詩雖凌迤而多

我理曰窮達皆由命何勞發嘆声
但知行好事莫要問前程冬去冰
須洋春來草自生請君觀此理
天道甚分明

遠圖必く論語遠人不服則修

文德以來之既來之則安之注內治

修然後遠人服有不服則修德以

來之亦不當勸於遠

風よわり本草序云真誥曰常

不能慎事上者自致百病之本而

怨咎於神靈乎當風即濕及責
他人於失覆皆瘕人也夫慎事上
者謂奉勤之事必皆慎思

その化 徳化

禹のゆきて 書大禹謨帝曰咨禹惟
時有苗弗率汝徂征禹乃會群
后三旬苗民逆命益曰惟徳勤天
無遠弗届禹班振旅帝乃証敷
文徳舞干羽干兩階七旬有苗格
蔡氏傳云三苗國名在江南荆揚

之間恃陰為乱者

こゝに於ては血氣のふあつりいれ
こゝに於ては情欲のわたり身とりあ
てらるゝやとらるゝ珠とらるゝ
あしぬきり美籍とこゝに於て愛と情
をこゝに於てはさるゝとらるゝ
まじりあはれりこゝに於て地とあ
そのゆゑに知るゝこのこゝに於て
こゝに於てはあつり情とあつり
いさげらるゝ百年のあつり

一女人容貌憔悴身體疲瘦云云
問女曰汝何邪人誰家之子有父母
外子孫兒女答曰曰吾是倡家
之子良室之女也母壯時嬌慢最甚衰
日愁難猶深云云 文繁少人少書云

清行

安信清行此之旨清行此と兼
すりよこ言清行なり人入れば世は善
相云とりふはそく浄蔵貴取らふと
そく文章と多く中明文粹よのこ
と美乃人書を若く寛平と云は比の人

かり

高節大帥

弘法大帥く大節附法

信并元亭教書第一は洋く

小節にまた大節をよつひわれば小節
よつひあつとひんよつひ小とあつ
あつひあつとひんよつひ大とあつ
中よ道成多のつひより氣味もあつ
ひんよつひあつとひんよつひ大とあつ
ていあつとひんよつひ大とあつ
よつひあつとひんよつひ大とあつ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the spread. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the spread. The text is dense and fills most of the page.

わろり わろり

をもしう 常トモたひらむをむらけ

あま

ぬもゆらん くらららん 羨ニハユミ明

ぬかひやまゆ じまよ

みろろろろ

あのみん 可カき

うろろろろろろろろろろ

あのみんすろろろろろろ

ろろろろろろろろろろ

えのろろろろろろろろ

あまのろろろろろろろろ

のろろろろろ 罵カ詈カ吐カろろ

白樂天答勸酒詩云真怪を来都

不飲絶廻因醉却沾巾誰料平生

狂酒客如今變作酒悲人

けいせり 統トウ比

えもいしあま 寝ネてハ嘔吐ウエツじろ

れ歌

百葉のと 前漢書食貨志支塩食

者之將泊百業之長

憂ウレ之ノ將カ泊ニ百ニ業ノ之ノ長ク

莫若酒モトクハナシ古樂府コガクフ行ハ以テ忘ル憂ヲ唯有ニ

杜康トコノ造ル酒ヲ故ニ為ス酒ノ名ト

可ク死ス也ト詩ニ云ク憂ハ心ニ如ク醉ト又

云憂如醒ウレニシメス

後ノ世ハ今ノ世ヨリ後ノ世ニ生ル酒ノのノ後ハ

後ノ世ハ今ノ世ヨリ後ノ世ニ生ル酒ノのノ後ハ

のノ後ハ今ノ世ヨリ後ノ世ニ生ル酒ノのノ後ハ

毒害ドクガイ火焚ヒホシ燒ヤク智チ惠ヱ慈ジ善ゼン根ネ

百ノ戒ト破ル飲酒戒ト破ル

自ラ餘レ戒ト破ル

酒ト破ル人ノのノ破ル人ノ

梵ノ網ノ經ノ心ノ北ノ法ノ門ノ品ノ云ク是レ酒ノ起ル罪ノ因ト

緣ト而シテ善ノ善ノ應ニ生ル一切ノ生ル明ノ達ノ惡ト

而シテ更ニ生ル一切ノ生ル顛ノ倒ノ之ノ心ノ者ノ之ノ善ト

薩ノ波ノ羅ノ素ノ罪ノ又シテ云ク若シ佛ノ子ノ故ニ飲酒

而シテ生ル酒ノ過ル失ル量ノ若シ自ラ身ノ手ノ過ル酒ノ

器ノ人ノ飲酒者ノ五ノ百ノ世ノ之ノ平ノ何レ況シテ自ラ

飲酒亦シ不レ得テ教ス一切人ノ飲酒及シ一切生ル飲酒

みはるし 中酒 祢酒 糸ノ時此

書

火くそりのり 宋壘山夜雷詩一

炉、柴火三盃、酒誰記山法有載達

つさくれゆふ 催馬糸

我家の戸より地をとたててくれと

人君といふせじいよせんみさくれよの

なにもせんあつひさささとりかぜよん

らろくゆりまふぬ 庐山、三咲竹林七

賢乃教えし

羅ゆりさうく 張安世の帝官乃酔て

ぬとよむ小夜くろくくろくくろくくろくく

の吏人酔て丞相車のことよ吐テ

酔飽の夫とひて士とすろへん

么てつみやん漢之よわり酔んよん

不習せころみぬあんと申あのをん

大飲と戒し

わさひしん 〇〇〇〇〇〇

のたあひしん 戸かひしんあわ

あつち

あしゆのいふるやえとて、うりされ
らんちりつる、店主人西明寺とふ
し身か傷ありとて、りた

入家 支那へつうたに店れあるとて、

入店といふ、宋元れ時されへ入家入
元といふ、

通眼上人 乃元とて、云人あきと別

人あう、通眼へ、秘言、永年、与人同
心して、日本曹洞宗、大始、釈書、云
乃元、建長、又、年、八月、死、終、兼、好

より、家、氏、人、く、ひ、乃、眼、へ、意、好、同、時
や、び、る、子、の、末、よ、意、好、那、基、寺、よ、り、て

通眼人法終、シ、や、り、と、あり

一切、乃、元、死、後、五、千、餘、卷、と、七、千、餘、卷、と
れ、多、少、あり

首楞嚴經 十卷あり

那蘭陀寺 楞嚴經、中、下、度、那、蘭、陀、大、道

場、乃、元、と、り、て、疏、云、那、蘭、陀、此、云、施、之、獸

昂、竜、名、く、西、域、云、菴、沒、羅、國、有、池

池、中、有、竜、名、施、之、獸、寺、近、彼、池、故、以、標、號

江師 大正 匡房 鄒より大宰

師なる所の為し江師といふは

平才の漢をいふ書をもみる匡房

作せりとののしりてくらしと

なれゆへに母にあらざるもの

といふことまことに師の言なり

いひのしりてなり 匡衛 奉用

成衛 匡房 正二位 権中納言 儒者

西城傳 玄奘の流天竺へいしりし

記録十二巻あり西城記といふ

法顯傳 法顯の流天竺の記録あり

上巻よりいしり

西明寺 唐の法相宗の門 園測乃

居りし寺に 田^三測^三の窺^キ基^キ乃才子基

ハ玄奘ノ才子ハ白氏文集少と西明

寺牡丹の池あり

乃なるのいひのしりていしり

と云云院より神泉苑へ出でて焼あり

別なりは成統の池といふことなり

神泉苑の池といふなり

いふに垣や木ぬまのいふにふしとあら地より
よれた首よりいひくろくもや鳥の尻尾に
あつありしものして書のあるよく作られ
くろくも一漢文のすけり日記は書こう

こゆた 謝土の書と塩よまふと人香山キリシ
書成り書よひ一王勉の書と豆稽ツカラ
仄よこしつろくもあまこへ味拾イロよこ
くろくもすけり

くろくもすけり 牆垣樹木入るこ
漢文の日記 こまきあり

四糸大用言隆親のくく鞋とまめと修ゆ
しつろくもすけりくろくもあま
地由りやあまの人のよまらふ
て大用言鞋といふ魚のあま
あまのよこしつろくもあま
ゆ糸もすけりん結れあま
らあまのよこしつろくも

隆親 四糸隆季 隆衛 隆親 持之助と正
二位検別命
くろくもすけり 二鞋とま 和名云雀島錫食

経云 鮭 折青及和名先介今案俗用鮭字
非也鮭音圭鮭魚一名也 其子似

くわら色されは信所よまらる人
らへ又本草綱目とみりよ鱈魚を
さげし鱈魚はわらしと和名集よ云
らる氏姓と結し世にらるるは信
所ゆよらるるり用り

人ひく牛とい角とみり人くみり
平とみりてとみりしとみりしと
人ともみりしとみりしと
のとりありんくみりしとみりしと
らみとみりしとみりしと

なり

是皆とらわり律に禁し 由礼缺鳥若

佛其首畜鳥則勿佛也 注佛謂

撥轉其首恐其喙之害人也畜者不

然順其性也又曰牧馬效羊者右牽

之效大者左牽之 注效陳献也以右

辛牽之為便大以左辛防其齧噬

事文類聚云度疑道世不仕牛馬有

跽齧者恐傷人不齧於市 圖書

西旅貢獒犬保乃作旅獒用訓

王曰大馬非其土性不畜珍禽奇獸
不育于國注獒犬高四尺能知人心
可使者猛而持人者異於常犬
律既牧曰凡馬牛及犬有觸舐蹄
咬人而記號拴繫不如法者有在大
不殺者答四十疏云依雜令畜產
舐人者截兩角踰久者絆足齒久
者截兩耳此為標識繫絆之法
相摸守時執の母へ下得尼とて中
くちとといれやせうこめつとらふと

けさわらりらしのおつれとらり
得尼のつらふりてとらりま
つれははたさとの城介義家と
日る者つらていさうつらてな
あつらふとやいんらつら
つら若らふとやいんらつら
たつらつらつらつらつら
行一らつらつらつらつら
つらつらつらつらつら
つらつらつらつらつら

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

時頼 南東乃執權正五位下相模守

号最明寺法名道宗くろく東

遷元亭叔書ふわり

北條 平時政義時恭時時氏 経時 時頼

相下源尼 東鑿四十四建長六年十月

六日相州室産女子加持若宮僧正

隆辨験者清言信如也奥州女唐松

下、源尼相州等群集為安東大津門

光成年、有、保物等銀劔五衣馬ツキヌ 韃靼タタリ

守ととしまつ

得た人亭（お換ち

と清待やうや

やうと人城介為京

やうといは身

得た人亭ととしまつと見身（秋田城介

為京ととしまつ（東鑑小洋

ものめい 遊仙窟よの嬰娘（うしろりま

くへいゆまこまへりり報美よものめ

いしあつと安公彰教小致命ととしまり

るやまのまこまへり

物へ為書こつた 貞永式目よ小破之時

且加修理こつたの泰時り法改く彼得

たるやまのまこまへりゆへよ此

してえ組人凡と可れよあへるる

俟物ととしまつ 論語子曰以物失之者

鮮矣又曰奢則不孫儉則固与具不

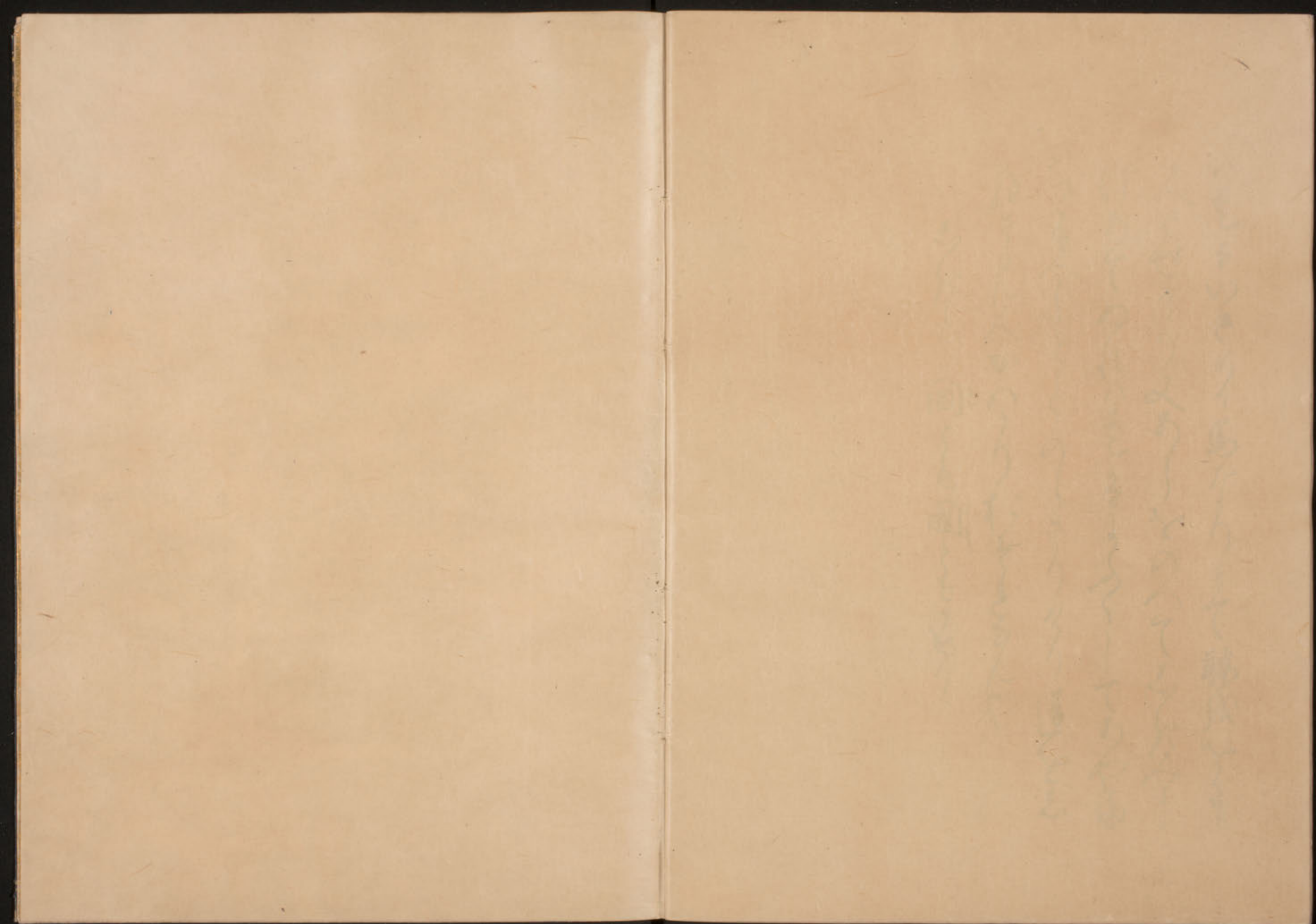
孫也寧固何晏集解云奢從約謂

之儉

地法奥守泰道へりりりた馬ふたり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり



62
10
3

1
10
3



110X
516
4